

令和2年度 全国学力・学習状況調査

使ってみよう!

学力



調査

調査問題活用の参考資料

中学校  
国語

令和2年10月



国立教育政策研究所教育課程研究センター



令和2年度 全国学力・学習状況調査 調査問題活用の参考資料  
中学校 国語

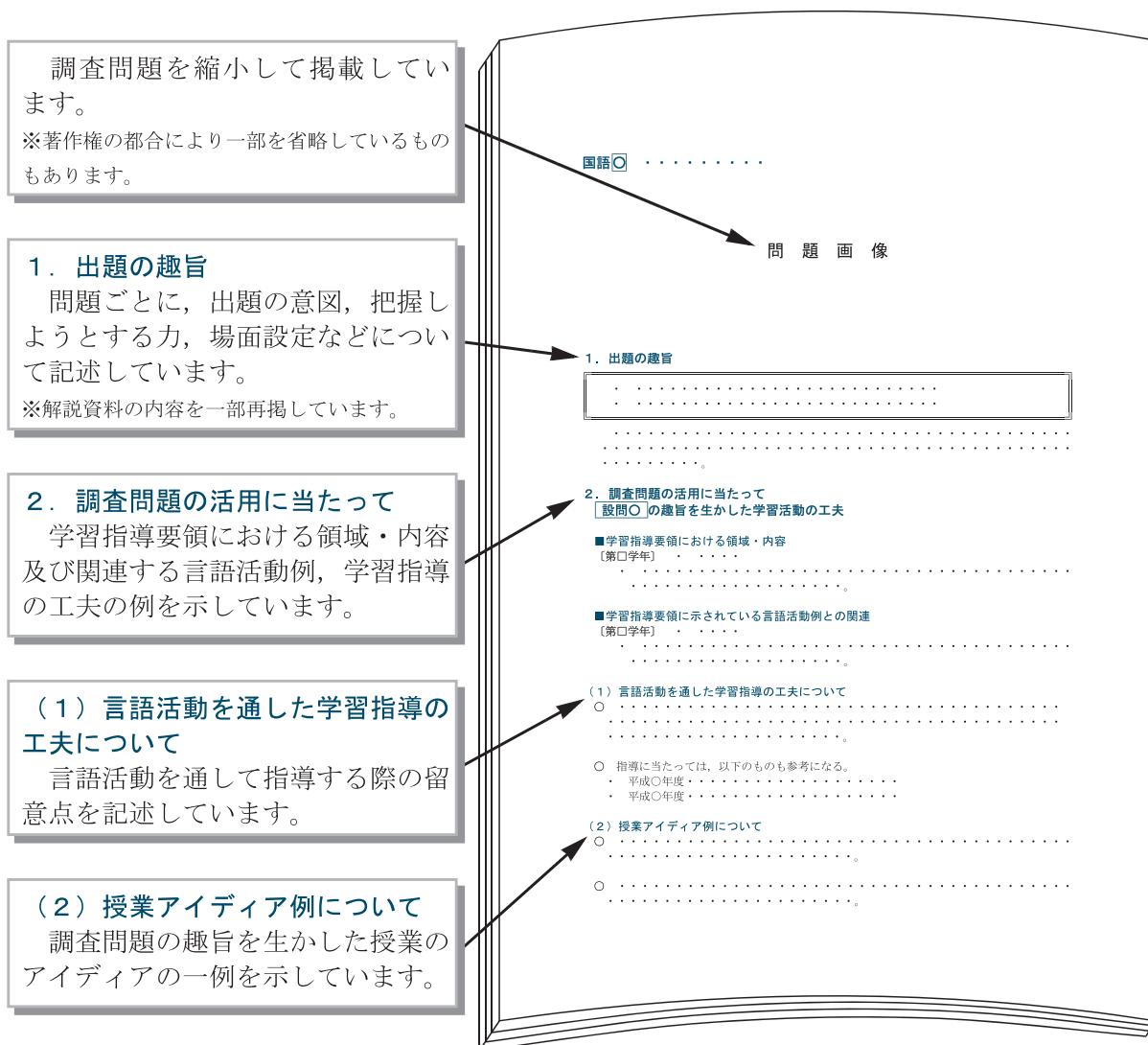
目 次

目次	1
中学校国語「調査問題活用の参考資料」の見方	2
中学校 国語	5
① スピーチをする（書道パフォーマンス）	6
② 説明的な文章を読む	14
③ 俳句を創作する	22
④ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	30

## 中学校国語「調査問題活用の参考資料」の見方

### 本資料について

本資料は、令和2年度全国学力・学習状況調査の調査問題を活用して、日々の学習指導の改善・充実を図ることができるように、調査問題の趣旨を生かした学習指導の工夫の例を示したものです。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、調査は実施しないこととしましたが、各教育委員会や学校等において、組織的・継続的な取組を展開する際の参考となるように作成しました。



本資料では、以下の資料については略称を用いています。

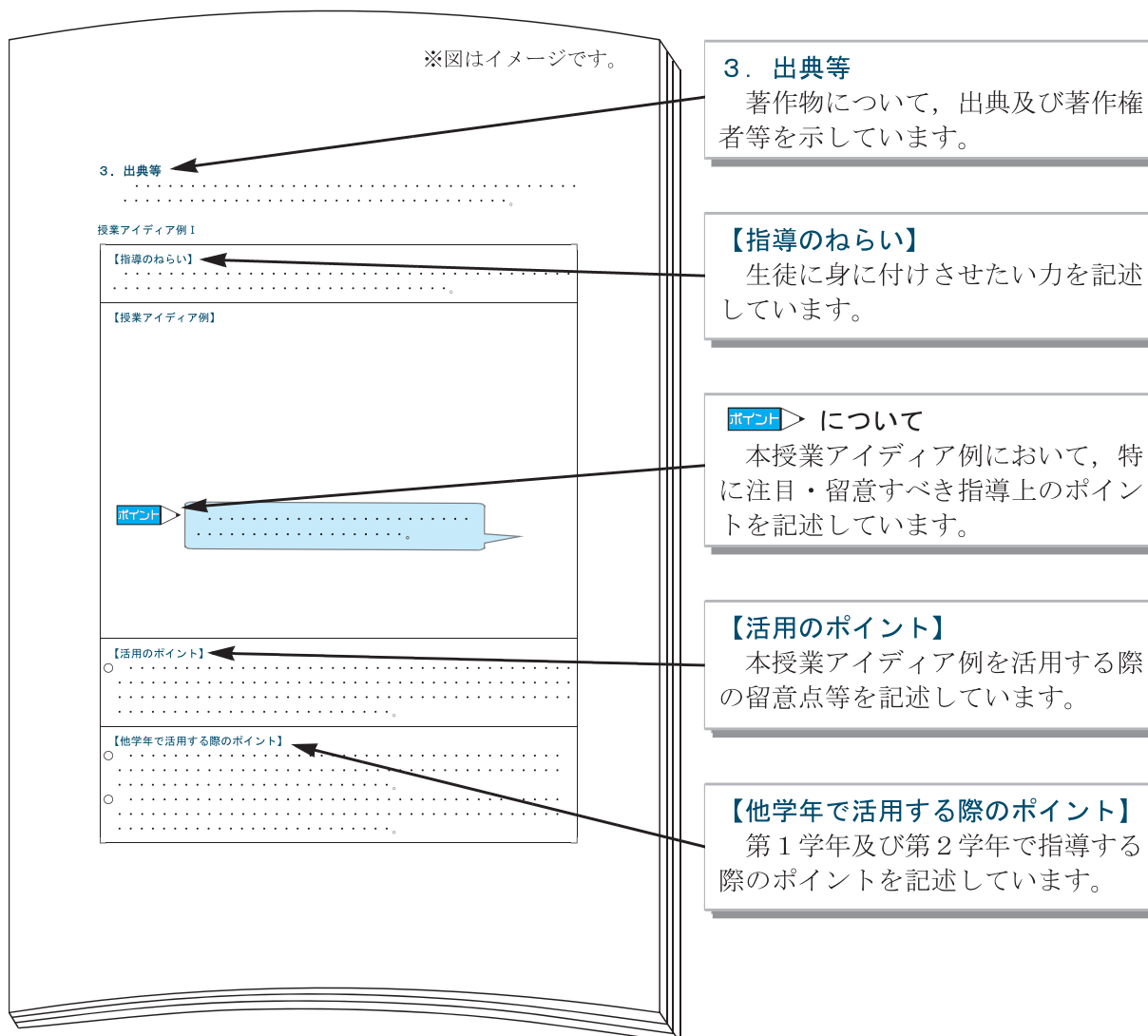
資料	略称
「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～【中学校編】」（平成24年9月発行）	「4年間のまとめ【中学校編】」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」	「平成○年度【中学校】報告書」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査【中学校】の結果を踏まえた授業アイデア例」	「平成○年度【中学校】授業アイデア例」
「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」（平成24年6月発行）	「言語活動事例集【中学校版】」



## 特徴

中学校国語「調査問題活用の参考資料」では、授業アイデア例Ⅰとして、今年度の調査問題を活用した指導の例、授業アイデア例Ⅱとして、今年度の調査問題とは別の教材等を活用した指導の例を示しています。

これらの「授業アイデア例」は、調査対象の第3学年における指導を想定しています。なお、本資料は他学年で活用することもでき、その際のポイントについては、「他学年で活用する際のポイント」で示しています。



過去の調査の解説資料、報告書や授業アイデア例など、これまで作成した資料については、国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載しています。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>





# 中学校 国語

# 国語 1 スピーチをする（書道パフォーマンス）

1 第一中学校の三年生は、卒業生から学ぶ会を開いています。その中で、高校生の橋本さんが、書道パフォーマンスについて動画を用いて話しています。次の「橋本さんの話」を「場面②で映している画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。



【橋本さんの話】

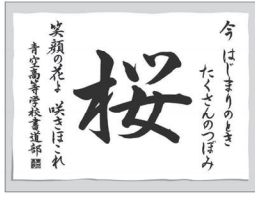
場面①  
皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する書道部で行っている書道パフォーマンスの魅力についてお話しします。書道パフォーマンスでは、複数のメンバーで一つの作品を書き上げます。これが、書道パフォーマンスの魅力だと私は思います。  
早速ですが、四月の新生活迎会で私たちが行った書道パフォーマンスの様子をご覧ください。

書道パフォーマンスの動画を途中で視聴する。

場面②  
ここで一度止めます。書道パフォーマンスでは、このように教室の半分くらいのとても大きな紙を使います。このとき私は、真ん中の文字を担当しました。私が使っている筆は墨を吸うとかなりの重さになり、文字を書くのがとても大変です。他のメンバーも皆、それぞれ担当する文字に集中し、体全体を使って書いています。それでは、私たちの動きに注目して、作品が完成するまでの様子をご覧ください。

書道パフォーマンスの動画を最後まで視聴する。

場面③  
いかがでしたか。今映し出されている作品の言葉は、メンバーで話し合い、新入生を花のつぼみにたとえ、笑顔の花が咲くことを願って選びました。それから、一つの作品として文字の調和をとることを大切にしました。メンバー五人が、それぞれ自分の書きたいように書いていて、よい作品にはなりません。そのため、中学校の授業で学んだ行書の特徴を確認しながら、何度も練習しました。  
このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、書道パフォーマンスの魅力が伝わり、興味をもってもらえるとうれしく思います。



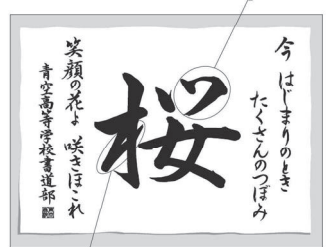
【場面③で映している画面】



【場面②で映している画面】

- 1 橋本さんの動画の活用仕方について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 聞き手に動画の内容と同じ動作をしようために、動画を静止させたり流したりして話している。
- 2 聞き手に注目してほしい内容を説明するために、必要な場面を静止させて話している。
- 3 聞き手に言葉では表現しきれない内容を伝えるために、一度示した場面を繰り返し流して話している。
- 4 聞き手に自分の話に集中してもらうために、内容に応じてところで画面の映像を消して話している。

二 場面③に「線部（中学校の授業で学んだ行書の特徴）」がありますが、次の○で囲まれた部分の①②③④の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。



- 1 ① 筆順の変化 ② 点画の連続
- 2 ③ 点画の省略 ④ 直線的
- 3 ⑤ 点画の省略 ⑥ 点画の連続
- 4 ⑦ 筆順の変化 ⑧ 直線的



## 2. 調査問題の活用にあたって

### 設問三 の趣旨を生かした学習指導の工夫

#### ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 《話すこと》

#### ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。

#### (1) 言語活動を通じた学習指導の工夫について

- 第1学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イについて、日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりする言語活動を通して指導する際には、伝える事柄や事実と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話すように指導することが大切である。また、何のために報告したり紹介したりするのかという目的や、相手はその話題についてどのような点に関心があり、どのような情報を既にもっているかなどの状況によって、報告や紹介の仕方が変わってくることに留意するように指導することも重要である。実際に報告したり紹介したりする場面では、聞き手から質問したり、内容や伝え方について助言し合ったりする場を設け、表現の仕方や聞き方を互いに学び合うことができるように指導することが大切である。
- 指導にあたっては、以下のものも参考になる。
  - ・ 平成22年度【中学校】授業アイデア例 P. 5 「作成した資料を目的や相手に応じて再構成し、その理由を説明することができるようにする。」
  - ・ 平成22年度【中学校】報告書 P. 169 「作成した資料を目的や相手に応じて再構成し、その理由を説明することができるようにする。」
  - ・ 4年間のまとめ【中学校編】 P. 88 「作成した資料を目的や相手に応じて再構成し、その理由を説明することができるようにする。」
  - ・ 平成30年度【中学校】授業アイデア例 P. 7～P. 8 「テーマに沿って、調べたことや考えたことを発表しよう」
  - ・ 言語活動事例集【中学校版】 P. 19～P. 20 『『体験入部』の報告をしよう』

## (2) 授業アイデア例について

- **授業アイデア例Ⅰ**では、卒業生である高校生のスピーチ（【橋本さんの話】）を聞いて、そのスピーチに対するお礼の言葉を述べるという本設問の場面設定を活用した授業アイデア例を示した。スピーチから分かったことと、自分の感じたことや考えたことに留意して話を構成したり、何名がお礼の言葉を述べるのかという点に配慮しながら話の内容を工夫したりすることを通して、目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話す力を身に付けることをねらいとする。
  
- **授業アイデア例Ⅱ**では、新入生に対して中学校生活の魅力を紹介するためにスピーチをするという言語活動を取り入れた授業アイデア例を示した。新入生に紹介したい内容を付箋に書き出し、グループごとに複数の構成案について検討したり、学級でスピーチのリハーサルを行ったりすることを通して、目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話す力を身に付けることをねらいとする。

## 授業アイデア例 I

### 【指導のねらい】

目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話すことができるようにする。

### 【授業アイデア例】

教材

● 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語<sup>1</sup>

学習の流れ

第1時

#### ① 学習の見通しをもつ。



教師

スピーチに対するお礼の言葉を考えてみましょう。スピーチから分かったことと、自分の感じたことや考えたことが分かりやすく伝わるように、話の構成や文末表現などを工夫しましょう。

#### ② 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語<sup>1</sup>を読み、どのような場面や状況かを確認する。

※ スピーチをする人を決め、【橋本さんの話】に基づいて実際にスピーチをしたり、インターネットを活用して、書道パフォーマンスの動画を視聴したりすることも考えられる。

#### ③ 【橋本さんの話】に対するお礼の言葉を考え、各自でノートにメモする。

【Aさんのメモ】

橋本さんのお話から、書道パフォーマンスではとても大きな紙を使うことが分かって驚きました。高校生になったら書道部に入りたいと思います。ありがとうございました。

【Bさんのメモ】

私は吹奏楽部に所属していて、聴いている人たちに感動を与えるような演奏をしたいと考えています。そのためには、橋本さんのお話にあったように、メンバー全員で力を合わせる大切なのだと改めて分かりました。

【Cさんのメモ】

橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力がよく分かりました。私たちも、協力して学校行事などに取り組み、充実感を味わいたいです。

#### ④ ③で書いたお礼の言葉をグループで検討する。

【検討している場面の例】



Aさん

私も高校で書道部に入りたいと考えましたが、それは【橋本さんの話】にある「メンバー全員で力を合わせ」ることがすばらしいと思ったからです。印象に残った書道の道具のことより、BさんやCさんのように「メンバー全員で力を合わせ」ことを取り上げた方が私の考えが伝わりやすいと思ったので、修正しようと思います。

「メンバー全員で力を合わせ」ことを取り上げたのは、私が【橋本さんの話】の中で最も共感したことであり、「橋本さん」が聞き手に伝えたいことだと思ったからです。ところで、私は自分が考えたことを先に述べましたが、AさんやCさんのように、【橋本さんの話】から分かったことを先に述べた方がよいのでしょうか。



Bさん



Cさん

Bさんは、先に自分の考えを示した上で、それを実現するためには何が大切なのかを【橋本さんの話】と関連させて述べているんですね。そのことが分かるので、Bさんのような話の構成もよいと思います。



## 第2時

- ⑤ お礼の言葉を述べる状況が異なる場合に留意すべきことを各自でノートに書き、グループで検討する。

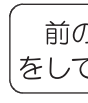


代表の生徒一人がお礼の言葉を述べるのではなく、一人のスピーチに対して複数の方がお礼の言葉を述べる場合には、どのようなことに留意する必要があるでしょうか。

### 【検討している場面の例】



複数の方がお礼の言葉を述べる場合には、自分より前に話した人と全く同じ内容にならないように気を付ける必要があると思います。



前の人と同じ内容を述べる際には、「〇〇さんの話と重なりますが」などの前置きをして、重複する部分があることに触れながら話すことよいかではないでしょうか。



一人一人が端的に述べ、全体の時間が長くなり過ぎないように留意することも必要だと思います。

- ⑥ ④、⑤で検討したことを踏まえ、グループ内でお礼の言葉を述べる。  
⑦ 学習を振り返る。

### 【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は、第3学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イを指導することを想定した授業の流れを示している。設問三で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、③、④に示したように、これまでに学習したことを想起し、スピーチから分かったことと、自分の感じたことや考えたことをどのように配列して話の全体を構成するかを考えたり、文末表現などにも注意して事実と意見との関係を明らかにして話したりするように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、③～⑥で、場の状況に応じた話し方ができているかについて、ノートに書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。

### 【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で、設問三で取り上げた指導事項について指導する場合には、③、④を中心に授業を行い、ノートに書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、設問三で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、③、④を中心に授業を行うとよい。また、第2学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イの指導事項を取り上げ、論理的で分かりやすい話の構成や展開の工夫について考えるように指導し、ノートに書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。

## 授業アイデア例Ⅱ

### 【指導のねらい】

目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話すことができるようにする。

### 【授業アイデア例】

#### 学習の流れ

第1時、第2時

#### ① 学習の見通しをもつ。



教師

新入生に対して、中学校生活の魅力を紹介するためにスピーチをします。グループごとに題材を選び、紹介する内容を考えたり、話の構成について検討したりしながら、5分程度のスピーチにまとめましょう。

#### ② 新入生に紹介する題材をグループごとに一つ選ぶ。

#### ③ 紹介したい具体的な事柄を各自で付箋に書く。

#### 【「各教科等の紹介」についての例】

中学校で学習する各教科等の名称。

1週間の時間割。

学校図書館を活用したり、インターネットで情報を検索したりする学習があること。

各教科担当の先生の紹介。

教科書が小学校より比較的厚くなること。

総合的な学習の時間では、学年ごとに特色ある学習をしていること。

タブレットPCを使って資料を見たり、互いの考えを交流したりする学習があること。

国語や外国語などの学習で、辞書を頻繁に活用すること。

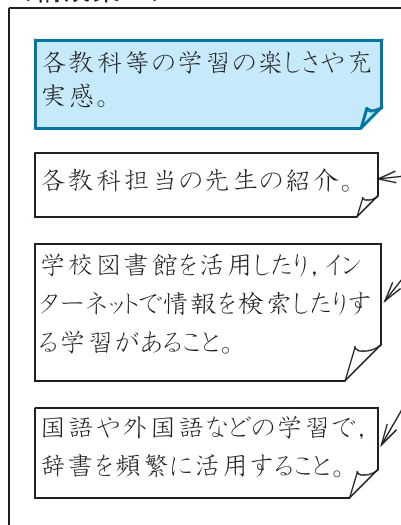
#### ④ ③の付箋を基に、スピーチの構成についてグループで検討する。



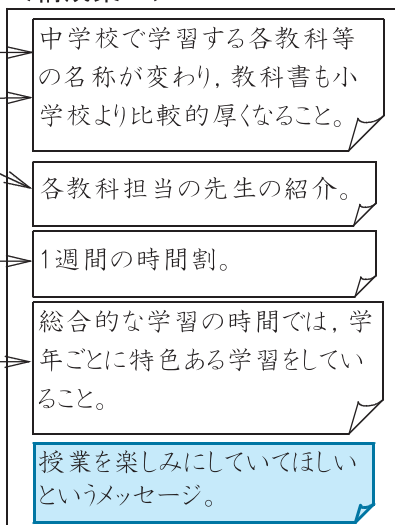
複数の構成案を考え、比較しながら検討しましょう。また、自分たちの思いや考えを青色の付箋に書いて加えたり、提示する資料が必要かどうかについて考えたりしましょう。

#### 【構成案の例】

##### <構成案A>



##### <構成案B>



※ ③、④について、ICT機器を活用して学習することも考えられる。

#### スピーチの題材の例

- 各教科等の紹介
- 学校行事の紹介
- 部活動の紹介

など

### 【検討している場面の例】



<構成案A>のように、自分たちの思いを最初に述べると、新入生に各教科等の学習が中学校生活の魅力の一つだと印象付けることができると思います。また、学校図書館やインターネットを活用した学習については、実際の写真を提示すると、様子が伝わりやすいと思います。

<構成案B>は、事前に出された二つの付箋について、「中学校で学習する各教科等の名称が変わり、教科書も小学校より比較的厚くなること。」とまとめていて、小学校の学習との違いを比較しやすくしてほしいと思います。しかし、魅力を伝えるという目的を考えると、この内容で十分でしょうか。



魅力をより具体的に伝えるために、各教科の先生にそれぞれの教科の面白さについて取材し、「各教科担当の先生の紹介。」に加えてはどうでしょうか。そうすることで、<構成案A>も<構成案B>も目的に沿った内容になります。

### 第3時

- ⑤ ④で考えた複数の構成案に基づいてグループ内でスピーチをし、どの構成案を採用するのかを決める。

#### ポイント

複数の構成案に基づいてグループ内でスピーチをし、どの構成案を採用するのかを決めましょう。その際、聞き手が新入生であることを意識した話し方を工夫しましょう。



### 第4時

- ⑥ 学級でスピーチのリハーサルを行い、よい点や改善点について他のグループと交流し、必要に応じて自分たちのスピーチを修正する。

- ⑦ 学習を振り返る。

※ ①～⑦の学習後に実際に新入生にスピーチをする。

### 【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は、第3学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イを指導することを想定した授業の流れを示している。設問三で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、③～⑤に示したように、これまでに学習したことを想起し、紹介したい事柄と自分たちの思いや考えをどのように配列して話の全体を構成するかを考えたり、文末表現などにも注意して事実と意見との関係を明らかにして話したりするように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、③～⑥で、場の状況に応じた話し方ができているかについて、グループでの検討の様子や学級でのリハーサルの様子などを基にして評価することが考えられる。

### 【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で、設問三で取り上げた指導事項について指導する場合には、③～⑤を中心に授業を行い、付箋に書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、設問三で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、③～⑤を中心に授業を行うとよい。また、第2学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イの指導事項を取り上げ、論理的で分かりやすい話の構成や展開の工夫について考えるように指導し、付箋に書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。

## 国語 2 説明的な文章を読む

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

- ・「成功」の反意語は「失敗」である
  - ・「賛成」の反意語は「反対」である
  - ・「好き」の反意語は「嫌い」である
- これらは小学生にもわかるような「常識」に見えます。本当にそうでしょうか？

今回はこうした固箱観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができるという「やわらかい頭の使い方」の事例を解説したいと思います。

まずは「成功」の反意語は「失敗」であるという常識を違う見方で見てみます。成功と失敗は一般には何らかの結果の「両極」であると考えられるためにこれら反意語と見なされるわけです。つまり次ページの図の上段の横棒上のような関係になります。ここでは成功と失敗が両端にある構図ですが、視点を移るためにこの軸を真ん中から二つに「折り曲げて」みます。図の中段。こうすると、左の端には「成功」と「失敗」が並び、右端にはそれらの中間、つまり「成功でも失敗でもない」という状態が位置づけられます。ここで「成功でも失敗でもない」という状態を改めて考えてみましょう。そもそも何かをやれば、その結果がうまくいけば「成功」となり、そうでなければ失敗となります。たとえそれが失敗でも、やった結果やそこからの教訓は残し、やった前とは状況は確実に違ってくるはずですが、何もしなければ、「成功でも失敗でもない」状況がずっと続くことになります。そう考えると、「成功でも失敗でもない」という状況を「作り出すのは「何もしない」という状態であることにはなりません。そう考えれば、この半分になった軸の両端が再び一つの考え方の軸になっているとわかります。つまり、「何か行動する」と「何もしない」という二極になるということ（図の下段）。

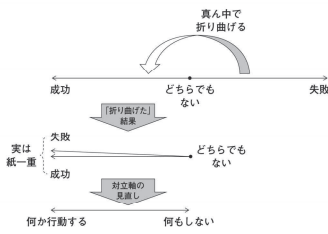
この構図からおわかりでしょう。「成功」と「失敗」は実は紙一重の「同意語」で、それらの反意語は「何もしないこと」ということになるのです。一九九〇年代を代表するイタリヤのサッカー選手、ロベルト・バツジョは「PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇氣のある者だけだ」という言葉を残しています。この言葉は先の「成功と失敗の構図」から見ると非常によく理解できます。少なくともPKで失敗するためには、競技場に出ていってPKを蹴るだけの資格を得る必要があります。逆に失敗に「一番悪い人」というのは「観客席やテレビの前」で座って見ている人、だということになります。

また、このような「両極と真ん中は実は対照的であって、両端に見えるものは実は似ている」という考え方は北極・赤道・南極の関係性にも当てはまります。文字通り両極のように見える北極と南極が実は気候的にも似ていて、対極にあるのが赤道だという構図です。

同じように考えてみると、「賛成」と「反対」は「明確に自分の意見を持っている」という点でむしろ「同意語」になり、この対極は「どちらでもない」「つまり「自らの明確な意見がない」ということになります。

何かを美稱しようとするときには必ず賛成する人もいます。反対派を説得するのも大変ですが、むしろ「明確に意見を持っていない」人を説得する方が大変な場面もあるのではないのでしょうか。「反対している人」の方が、理解されれば逆に賛成に回ってくれることもあるのに対して、「賛成でも反対でもない人」というのは最後までつかみどころがありません。

同様に、「好き」と「嫌い」は「対象への関心が高い」という点では同意語で、これらの反意語は「無関心」と見ることもできます。レストランやお店等でのクレームを受けた場合に、これをチャンスととらえる人がいます。それは、クレームするときの人間は



「感情が高ぶって精神的に近づいている」分、その後は対応を誤れば「腹と来ない」ことになってしまいますが、すかさずサービスタブを渡す等のフォローをすれば、逆に常連さんになってできるチャンスがあるということでしょう。

この考え方を応用すると、「新しいアイデアを創造的に生み出せる人」と「文句ばかり言っている人」というのも実は紙一重であることがわかります。「半分に折った二軸の両端には、「現状に満足していない」と「現状に満足している」という対極の言葉が当てはまります。つまり、実は「不満ばかりの人」はそのエネルギーを前向きに使えば実はアイデアマンに姿身する可能性があるということでしょう。

往々にして組織というのは、斬新なアイデアや創造性を求めるといえながら、「不満だらけの人」を排除し、「協調性のある人」を登用していきます。これがいかに矛盾しているかというのも「半分に折った」構図を見れば明らかでしょう。

「両極端か中庸か」という構図。ぜひ読者の皆さん身の回りでも探して「半分に折って」違う見方で考えてみてください。

（細骨格）ヨシタケケンスケ「やわらかい頭の作り方 身の回りの見え方が、構想を解明する」による）

（注1）PKは試合中に相手側の反則によって与えられるキックの一つ。ゴールの正面にあるペナルティーマークにボールを蹴り、ゴールキーパーだけを相手にゴールをねらって蹴る。また、試合の勝敗が決まらないときにも、ペナルティーマークからボールを蹴ることを行う。

（注2）クレーム商品 相手の行為や処置などに対する苦情、注文。

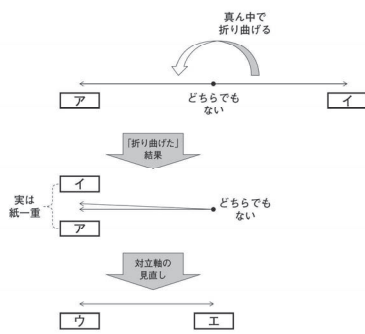
（注3）常連 常連である飲食店などにいつも来る客。

（注4）中庸 考えや行いがどちらにもかたよらないこと。

—— 線部①「固定観念を異なる視点から見る」とありますが、本文中に示されている具体例として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 一般には「成功」の反意語は「失敗」と見なされているが、「何か行動する」という点では同意語だといえる。
- 2 一般には「北極」の反意語は「南極」と見なされており、「両端に見える」という点でも反意語だといえる。
- 3 一般には「賛成」の反意語は「反対」と見なされているが、「自らの明確な意見がない」という点では同意語だといえる。
- 4 一般には「好き」の反意語は「嫌い」と見なされており、「対象への関心が高い」という点でも反意語だといえる。

- |   |   |            |   |            |   |         |   |          |
|---|---|------------|---|------------|---|---------|---|----------|
| 1 | ア | 判断を示す      | イ | 判断を示さない    | ウ | 提案を肯定する | エ | 提案を否定する  |
| 2 | ア | 文章を追加する    | イ | 文章を削除する    | ウ | 情報を増やす  | エ | 情報を減らす   |
| 3 | ア | 一歩前進する     | イ | 状況が変わる     | ウ | 一歩後退する  | エ | 状況が変わらない |
| 4 | ア | コンクールで入選する | イ | コンクールで落選する | ウ | 物事に挑戦する | エ | 物事に挑戦しない |



四 ― 線部④「ぜひ読者の皆さんの身の回りでも探して『半分は折って』違う見方で考えてみてください」とありますが、次の図の  
ア、イ、ウ、エに入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 店がクレームを言った客への対応を誤ること、その客が二度と店に来なくなること。
- 2 店がクレームを言った客にうまく対応すること、その客が店の常連さんになってくれること。
- 3 客が店に対してクレームを言って困らせること、店が客のクレームをチャンスととらえること。
- 4 クレームを言った客が二度と店に来なくなること、その客が店の常連さんになってくれること。

三 ― 線部③「逆」とありますが、何と何が「逆」なのですか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ア 物事がさらに付け加わる。
- イ 一例を挙げて他の物事を推測させる。
- ウ それだけで十分である。

【意味】

- 1 厳しい環境で植物が生きえない。
- 2 私は本さえあれば満足だ。
- 3 風が強いうえに雨さえ降ってきた。

二 ― 線部②「さえ」と同じ意味で用いられているものを、次の【用例】の1から3までの中から一つ選びなさい。また、その【意味】を、あとのアからウまでの中から一つ選びなさい。

## 1. 出題の趣旨

- 文章の中心的部分と付加的部分とを読み分け、内容を捉えること
- 助詞の働きについて理解すること
- 文章の展開に即して内容を捉えること
- 文章の内容を捉え、書き手の考えを理解すること

これまでの全国学力・学習状況調査の結果を見ると、複数の資料から適切な情報を得てそれらと比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題があることが分かる。例えば、「平成31年度（令和元年度）

【中学校】報告書」では、「読むこと」について「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。」(P. 8)としている。

本問では、これらの課題を踏まえて、「固定観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができる」ということについて、複数の具体例を示しながら図を用いて説明している文章を取り上げ、第1学年「C 読むこと」(1)イの「文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」の指導事項を中心に出題した。設問一では、文章の中心的部分と付加的部分を読み分け、書き手の考えと具体例との関係を叙述に即して的確に捉えること、設問三では、文章の展開に即して原因と結果など情報と情報との関係に留意しながら内容を捉えることを求めている。設問四では、書き手の考えと具体例との関係を叙述に即して捉えた上で、身の回りにある別の例に当てはめて考えることを求めている。また、設問二では、助詞の働きについて理解することを求めている。これは、助詞の働きを単に知識として学習するだけでなく、実際に文章を読む際に活用し、生きて働く力として身に付けていくことが大切であることを踏まえたものである。



## 2. 調査問題の活用にあたって

**設問一**， **設問三**， **設問四** の趣旨を生かした学習指導の工夫

### ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

イ 文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 《文章の解釈》

### ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 C 読むこと

イ 文章と図表などとの関連を考えながら，説明や記録の文章を読むこと。

#### (1) 言語活動を通じた学習指導の工夫について

○ 第1学年「C 読むこと」(1)イについて，文章と図表などとの関連を考えながら，説明や記録の文章を読む言語活動を通して指導する際には，図表が文章の中心的な部分，又は付加的な部分のどの部分と関連しているのかを確認するなどして，書き手の伝えたい内容をより的確に読み取るように指導することが大切である。その際，図表が文章の内容をより分かりやすくするために使われている場合や，文章が図表の解説になっている場合などがあることに留意して読むように指導することも効果的である。また，読む目的に応じて段落ごとに内容を捉えたり，段落相互の関係を正しく押さえたりしながら，更に大きな意味のまとまりごとに，文章全体における役割を捉えるように指導することも重要である。

○ 指導にあたっては，以下のものも参考になる。

- ・ 平成22年度【中学校】報告書 P.130「論理の展開の仕方を的確にとらえ，内容をとらえることができるようにする。」
- ・ 4年間のまとめ【中学校編】 P.104「論理の展開の仕方を的確にとらえ，内容をとらえることができるようにする。」
- ・ 平成23年度【中学校】授業アイデア例 P.3～P.4「文章の内容を『Q&A集』の形式で紹介する。」
- ・ 4年間のまとめ【中学校編】 P.96～P.97「文章の内容を『Q&A集』の形式で紹介する。」
- ・ 平成24年度【中学校】報告書 P.148「文章の展開に即して内容を捉えることができるようにする。」
- ・ 平成24年度【中学校】授業アイデア例 P.2「目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようにする。」
- ・ 平成24年度【中学校】報告書 P.150「目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようにする。」
- ・ 平成30年度【中学校】授業アイデア例 P.5～P.6「目的に応じて説明的な文章を読む」
- ・ 言語活動事例集【中学校版】 P.25～P.26「文章と図表との関係を読み解こう」

## (2) 授業アイデア例について

- **授業アイデア例Ⅰ**では、「固定観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができる」ということについて、複数の具体例を示しながら図を用いて説明している本問の文章を活用した授業アイデア例を示した。文章の書き出しの部分に着目して読んだり、文章中に示されている具体例や図に留意して読んだりすることを通して、文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分けて論理の展開の仕方を捉え、内容を理解する力を身に付けることをねらいとする。
- **授業アイデア例Ⅱ**では、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>1</sup>で用いた、文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』を出典とする文章を活用した授業アイデア例を示した。目的に応じて何を中心にして文章を要約するのかを考えたり、要約した文章を互いに読み合ったりすることを通して、文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分けて論理の展開の仕方を捉え、内容を理解する力を身に付けることをねらいとする。

## 3. 出典等

本問及び授業アイデア例Ⅰは、細谷功・ヨシタケシンスケ『やわらかい頭の作り方 身の回りの見えない構造を解明する』（2015年3月 筑摩書房）による。授業アイデア例Ⅱは、文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』（2015年12月 幻冬舎）による。

## 授業アイデア例 I

### 【指導のねらい】

文章の中心的部分と付加的な部分とを読み分けて論理の展開の仕方を捉え、内容を理解することができるようにする。

### 【授業アイデア例】

教材

● 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語<sup>2</sup>

学習の流れ

第1時、第2時

#### ① 学習の見通しをもつ。



教師

文章の中心的部分と、それを支える例示などの付加的な部分とを読み分け、書き手のものの見方や考え方に気を付けながら、文章の内容を理解しましょう。

② 文章全体を読んだ上で、1行目から7行目に着目し、このような書き出しにした筆者の意図について各自で考え、ノートに書く。

③ ②について全体で確かめる。

#### 【生徒の発言の例】



私たちが「常識」と感じていることの複数の具体例を示した上で、「本当にそうでしょうか？」と問いかけることで、読み手の興味・関心を喚起しているのだと思います。

6行目から7行目にかけて、「今回はこうした固定観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができるという『やわらかい頭の使い方』の事例を解説したい」とあり、この文章で述べようとしていることを読み手に意識させているのだと思います。



④ 筆者が提示している具体例をノートに書き出し、ペアで確認する。

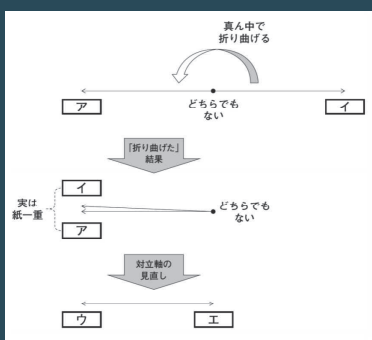
⑤ ④で確認したことを基に、筆者が述べていることについて、図を活用しながら全体で確認する。



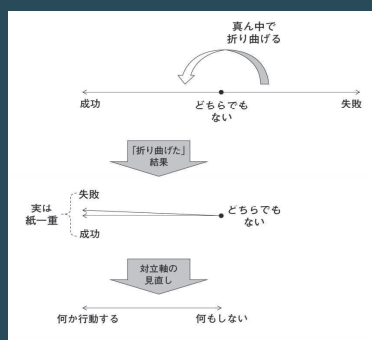
筆者は「固定観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができる」ことについて、「成功」と「失敗」の例を取り上げ、図を用いて説明しています。文章と図とを関連させながら、筆者が述べている内容を捉えましょう。また、他の例についても図に当てはめて考えてみましょう。

### 【板書例】

「賛成」と「反対」の例の場合  
「好き」と「嫌い」の例の場合



○ 他の例について



○ 本文に示されている図



### 【生徒の発言の例】



本文に示されている図の上段は、「成功」の「反意語」は「失敗」であるという「固定観念」のことを示しています。図の中段は、上段の図を折り曲げて「異なる視点」から見ると、「成功」と「失敗」は紙一重であり、その対極が「どちらでもない」状態になることを示しています。

そして、図の下段は「成功」と「失敗」について、「何か行動する」という点で二つは「同意語」であり、その「反意語」は「何もしない」ということを示していますね。



他の例を、黒板の左の図に当てはめて考えてみると、「賛成」と「反対」の例については、アには「賛成」、イには「反対」が入ります。それらを「異なる視点」から見ると「賛成」と「反対」は紙一重の「同意語」になり、ウには「明確に自分の意見を持っている」、エには「自らの明確な意見がない」が入ります。

「好き」と「嫌い」の例については、アには「好き」、イには「嫌い」、ウには「対象への関心が高い」、エには「無関心」という言葉が当てはまります。本文にある「レストランやお店等でのクレーム」の説明も納得できました。



### ⑥ 設問一、三、四を解き、筆者が述べていることをグループで再確認する。



文章の冒頭にある「固定観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができる」ことについて、筆者が述べている内容を捉えることはできましたか。設問を解いたり、文章を読み返したりしながら確認しましょう。

### 第3時

- ⑦ 文章の論理の展開の仕方で気付いたことを各自でノートに書く。
- ⑧ ⑦について全体で確かめる。
- ⑨ 学習を振り返る。

### 【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は、第3学年「C 読むこと」(1)イを指導することを想定した学習の流れを示している。設問一、三、四で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、④～⑥に示したように、これまでに学習したことを想起し、文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、文章と図との関連を考えて読むように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、②～③で、文章の論理の展開の仕方を捉えて内容を理解しているかについて、ノートに書いた内容や発言の様子などを基にして評価することが考えられる。

### 【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で、設問一、三、四で取り上げた指導事項について指導する場合には、④～⑥を中心に授業を行い、ノートに書いた内容や発言の様子などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、設問一、三、四で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、④～⑥を中心に授業を行うとよい。また、第2学年「C 読むこと」(1)イの指導事項を取り上げ、それぞれの具体例が文章の展開の中でどのような役割を果たしているかについて考えるように指導し、ノートに書いた内容や発言の様子などを基にして評価することが考えられる。

## 授業アイデア例Ⅱ

### 【指導のねらい】

文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分けて論理の展開の仕方を捉え、内容を理解することができるようにする。

### 【授業アイデア例】

#### 教材例

- 教科書や学校図書館にある書籍等に掲載されている説明的な文章など

#### 学習の流れ

#### 第1時

- 1 学習の見通しをもつ。



教師

グループごとに説明的な文章を選んで読み、関心をもったことや分かったことなど、他のグループの人に伝えたいことを中心に要約しましょう。

<文章はこちらから>



- 2 教師が用意した説明的な文章の中からグループごとに読む文章を決め、他のグループの人に伝えたいことに印を付けながら、各自で文章を読む。

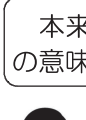
(ここでは、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>1</sup>で用いた、文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』を出典とする文章を活用した学習の流れを示す。本書籍にある他の文章を活用することも考えられる。)

- 3 2で印を付けた内容を基に、伝えたいことについてグループで交流し、どのようなことを中心にして要約するのかを決める。

#### 〔交流している場面の例〕



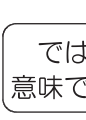
私は、「天地無用」という言葉の本来の意味を初めて知りました。グラフを見ると、本来の意味を捉えられていない人が5割近くいると分かりました。



本来の意味を捉えられていない人の中でも、「上下を気にしないでよい」と全く逆の意味で捉えている人が29.2%もいることが問題だと思います。



私もそのことに関心をもちました。なぜ本来の意味とは逆の意味で捉えている人が多いのかが気になりました。その理由については、いくつか書かれているようです。



では、私たちのグループは「天地無用」という言葉について、本来の意味とは逆の意味で受け取っている人がいる理由を中心に要約しましょう。



#### 第2時

- 4 3で決めた内容を踏まえて各自で要約するとともに、文章の論理の展開の仕方で気付いたことをノートに書く。

#### ポイント

要約する際には、目的に応じて必要な情報を過不足なく取り上げ、整理することが大切です。そのために、文章全体を読んで各段落の役割について考えたり、言葉の使い方に着目したりしながら、筆者がどのように論理を展開しているかを捉えましょう。



- 5 ④で要約した文章をグループで交流し、必要な情報が整理されているかを確認する。

【交流している場面の例】

※ ICT機器を活用し、ホワイトボードなどに文章を映して交流するなどの工夫をすることも考えられる。



この文章は、大きく「話題の提示」、「『天地無用』の本来の意味」、「理解の実態」、「誤解の理由」、「対応策」という構成になっているので、「誤解の理由」が書かれている段落に着目してまとめました。

「誤解の理由」について、筆者は「どのような理由があるのでしょうか」と問いかけた上で、「また」という接続詞の前後でそれぞれ理由を述べているので、大きく二つの理由を書く必要がありますね。



「誤解の理由」は、要約の中心となる部分ですが、分かりやすく説明するためには、全体の内容にも触れた方がよいかもかもしれませんね。

- 6 ⑤で交流した内容を踏まえ、必要に応じて、要約した文章を各自で修正する。

第3時

- 7 ④～⑥で要約した文章をグループでまとめ、何を中心に要約したのかを示す。

【グループでまとめた文章の例】

<p>○ 何を中心に要約したのか 「天地無用」という言葉について、本来の意味とは逆の意味で受け取っている人がいる理由。</p>	<p>○ 要約した文章 宅配便の段ボール箱などに貼られている「天地無用」という言葉は、本来「上下を逆にしてはいけない」という意味です。しかし、文化庁の調査によると「上下を気にしないでよい」という逆の意味で受け取っている人が29・2%います。 誤解の理由は、現在、「無用」があまり使われなくなり、「無用」の「してはならないこと」という意味が分かりにくいことにあります。 また、「天地無用」という言葉は、「天地を逆にすること無用」のように、「逆にすること」に当たる内容が省略された言い方になっています。そのため、「無用」の意味を「してはならないこと」以外の意味で捉えてしまい、「天地はいらぬ上下は気にしないでいい」などと解釈されることになりやすいと考えられます。</p>
---	---

- 8 ⑦で書いた文章を他のグループの人と互いに読み合い、感想を交流する。

- 9 学習を振り返る。

【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は、第3学年「C 読むこと」(1)イを指導することを想定した学習の流れを示している。設問一、三、四で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、②～⑥に示したように、これまでに学習したことを想起し、目的に応じて文章を読み、必要な情報を過不足なく整理するように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、④、⑤で、文章の論理の展開の仕方を捉えて内容を理解しているかについて、ノートに書いた内容やグループでの交流の様子などを基にして評価することが考えられる。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で、設問一、三、四で取り上げた指導事項について指導する場合には、②～⑥を中心に授業を行い、ノートに書いた内容やグループでの交流の様子などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、設問一、三、四で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、②～⑥を中心に授業を行うとよい。また、第2学年「C 読むこと」(1)イの指導事項を取り上げ、各段落が文章全体の中で果たす役割について考えるように指導し、ノートに書いた内容やグループでの交流の様子などを基にして評価することが考えられる。



## 1. 出題の趣旨

- ・ 自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くこと

平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査における学校質問紙調査では、「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか」という質問に「よくしている」、「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした学校の割合は、これまでで最も高い94.9%であった。国語科においても、各領域の指導について、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、学習指導要領の内容の(2)に示された言語活動例などを通じた指導が全国で行われていると考えられる。しかし、例えば「平成31年度（令和元年度）【中学校】報告書」では、「書くこと」について、取り出した情報を「自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすいように書くことに課題がある」（P. 8）としている。様々な言語活動を通じた学習の中では、文章を書く目的や意図をより意識し、読み手に分かりやすく書くように指導する必要がある。

本問では、これらの課題を踏まえて、「卒業」をテーマに俳句を創作する場面を設定し、第2学年「B 書くこと」(1)ウの「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」の指導事項について出題した。俳句に用いる言葉を複数の候補の中から選び、その言葉を選んだ理由を書くことを求めている。

## 2. 調査問題の活用に当たって

### ■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 B 書くこと

ウ 事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。 《記述》

### ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第2学年〕 B 書くこと

ア 表現の仕方を工夫して，詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。

〔第2学年〕 B 書くこと

イ 多様な考えができる事柄について，立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

### (1) 言語活動を通じた学習指導の工夫について

- 第2学年「B 書くこと」(1)ウについて，表現の仕方を工夫して，詩歌を作ったり物語などを書いたりする言語活動を通して指導する際には，これまで学習してきたことも参考にしながら，様々な言葉や表現を工夫して書くように指導することが大切である。その際，第2学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」(イ)との関連を図り，抽象的な概念を表す語句，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，語感を磨き語彙を豊かにするように指導することも有効である。

多様な考えができる事柄について，立場を決めて意見を述べる文章を書く言語活動を通して指導する際には，どのような事柄についてどのような意見を持ち，どのような論の展開で記述するかを考え，論点について賛成か反対かなど自分の立場を決め，自分の考えの中心や主張を明確にして書くように指導することが大切である。

- 指導に当たっては，以下のものも参考になる。
- ・ 平成22年度【中学校】授業アイデア例 P. 2 「相手に応じた適切な表現で案内文を書くことができるようにする。」
  - ・ 平成22年度【中学校】報告書 P. 136 「相手に応じた適切な表現で案内文を書くことができるようにする。」
  - ・ 平成23年度【中学校】授業アイデア例 P. 1～P. 2 「募集要項に基づいて，応募された標語を批評する文章を書く。」
  - ・ 4年間のまとめ【中学校編】 P. 94～P. 95 「募集要項に基づいて，応募された標語を批評する文章を書く。」
  - ・ 平成24年度【中学校】報告書 P. 199 「資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び，伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことができるようにする。」
  - ・ 平成25年度【中学校】授業アイデア例 P. 11～P. 12 「星新一の作品を読んで，感想交流会を開こう」
  - ・ 平成25年度【中学校】授業アイデア例 P. 13～P. 14 「合唱コンクール必勝法を伝えるポスターを書く」
  - ・ 平成26年度【中学校】授業アイデア例 P. 11～P. 12 「説明的な文章を読んで，質問に答えよう」
  - ・ 平成27年度【中学校】授業アイデア例 P. 3 「問合せのメールに回答する」
  - ・ 平成28年度【中学校】授業アイデア例 P. 3 「要望する文章を書こう」



- ・ 平成28年度【中学校】授業アイデア例 P. 5～P. 6 「係の活動への協力を呼びかけるちらしを作る」
- ・ 平成31年度【中学校】授業アイデア例 P. 7～P. 8 「読み手を意識しながら、意見文を書く」
- ・ 言語活動事例集【中学校版】 P. 21～P. 22 「学校からの『お知らせ』を書き換えよう」
- ・ 言語活動事例集【中学校版】 P. 41～P. 42 「高等学校のパンフレットを批評する文章を書こう」

## (2) 授業アイデア例について

- **授業アイデア例Ⅰ**では、「卒業」をテーマに俳句を創作するという本問の場面設定を活用した授業アイデア例を示した。俳句に用いる言葉を「ほろほろ」、「ぼろぼろ」、「ぽろぽろ」の中から選び、その言葉を選んだ理由を書いたり、書いた文章をグループで交流したりすることを通して、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書く力を身に付けることをねらいとする。
- **授業アイデア例Ⅱ**では、各自で創作した短歌を紹介する文章を書くという言語活動を取り入れた授業アイデア例を示した。短歌に込めた自分の思いや、それを表現する上で工夫した点などについて文章に書き表したり、書いた文章をグループで交流したりすることを通して、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書く力を身に付けることをねらいとする。

## 3. 出典等

本問の【辞典の記述】は、浅野鶴子・金田一春彦『擬音語・擬態語辞典』（1978年4月 角川書店）、阿刀田稔子・星野和子『正しい意味と用法がすぐわかる 擬音語・擬態語使い方辞典 第2版』（1995年10月 創拓社）、山口仲美編『擬音語・擬態語辞典』（2015年5月 講談社）などを参考にした。

## 授業アイデア例Ⅰ

### 【指導のねらい】

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書くことができるようにする。

### 【授業アイデア例】

教材

● 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語<sup>3</sup>

学習の流れ

#### 第1時

#### ① 学習の見通しをもつ。



教師

「ほろほろ」、「ぼろぼろ」、「ぼろぼろ」の中から言葉を一つ選んで俳句を完成させ、その言葉を選んだ理由を書きましょう。書いた文章は、学級の他の人と交流します。

#### ② 「ほろほろ」、「ぼろぼろ」、「ぼろぼろ」の三つの言葉の意味や用例を、本問にある【辞典の記述】や国語辞典を用いて確認する。

#### ③ 「卒業にこぼれる涙 と」の空欄に入れる言葉を、三つの言葉の中から一つ選び、俳句を完成させる。

#### ④ ③で完成させた俳句について、その言葉を選んだ理由を各自でノートに書く。

※ 生徒の実態等に即して、字数を指定することも考えられる。



自分が選んだ言葉について、どのような意味に着目したのかを、他の言葉の意味との違いが分かるように書きましょう。また、その言葉を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを書きましょう。

### 【Aさんが書いた文章】

小学校の卒業式の日、自分でも気付かないうちに涙が流れてきたことを表すには、どの言葉がふさわしいのかな。



Aさん

卒業に こぼれる涙  
ほろほろと

私は、空欄に入れる言葉として「ほろほろ」を選びました。なぜこの言葉を選んだのかというと、「ほろほろ」には「音もなくと続けてこぼれ落ちる」という意味があり、私が想像した情景が表現できると思ったからです。小学校を卒業したときのことです。六年間の喜びや悲しみがたくさん詰まった校舎が、振り返った私を笑顔で送り出してくれているように見えました。そのときに流れた涙が「ほろほろ」という感じだったのです。つまり、「ぼろぼろ」や「ぼろぼろ」ではなく、「ほろほろ」が、そのときの私の気持ちにぴったりだったので、この言葉を選びました。

#### 第2時

#### ⑤ ④で書いた文章をグループで交流する。

#### 交流する際の観点の例

- どのような意味に着目してその言葉を選んだのかについて、他の言葉の意味との違いが分かるように書かれているか。
- その言葉を用いることでどのような情景や心情を表現できると考えたのか書かれているか。
- 選んだ言葉と、その言葉を用いることで表現できると考えた情景や心情との関係が分かるように書かれているか。

など



【交流している場面の例】



Aさんが「ほろほろ」の「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目したことは分かりますが、三段落目に書かれている情景や心情とどのように関係するかが分かりづらいので、もう少し説明を加えた方がよいと思います。

「ほろほろ」や「ぼろぼろ」を選ばなかった理由についても触れると、「ほろほろ」を選んだ理由がより明確に伝わるのではないのでしょうか。



⑥ ⑤で交流した内容を踏まえ、必要に応じて、各自で文章を書き直す。

【Aさんが書き直した文章】 ※ 青字は、書き直した部分。

卒業に こぼれる涙  
ほろほろと

私は、空欄に入れる言葉として「ほろほろ」を選びました。なぜこの言葉を選んだのかというと、「ほろほろ」には「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味があり、涙が自然に流れる様子を表現できると思ったからです。小学校を卒業したときのことです。六年間の喜びや悲しみがたくさん詰まった校舎が、振り返った私を笑顔で送り出してくれているように見えました。私は、お世話になった方々への感謝の思いと、これからに向けての決意が胸の中に広がるのを感じました。そのときの涙の様子をこの句で表現したいと思いました。

つまり、大粒で量が多い印象の「ぼろぼろ」や乾いた感じがする「ほろほろ」ではなく、心からしみ出るような涙の様子を表現できる「ほろほろ」が、そのときの私の気持ちにぴったりだったので、この言葉を選びました。

⑦ 学習を振り返る。

【活用のポイント】

○ 本授業アイデア例は、第3学年「B 書くこと」(1)イを指導することを想定した学習の流れを示している。本問で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、④に示したように、これまでに学習したことを想起し、目的に応じて分かりやすい説明や具体例を加えて書くように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、④～⑥で、初めに自分の考えを述べ、根拠となる辞書の意味などを示し、自分の考えの妥当性を示す書き方や、根拠となる辞書の意味などを初めに示し、自分の考えの妥当性へと結び付ける書き方などができているかについて、ノートに書いた内容やグループでの交流の様子などを基にして評価することが考えられる。

【他学年で活用する際のポイント】

○ 第1学年で指導するに当たっては、④を中心に授業を行うとよい。その際、第1学年「B 書くこと」(1)ウの指導事項を取り上げ、読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるような書き方について考えるように指導し、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。

○ 第2学年で、本問で取り上げた指導事項について指導する場合には、④を中心に授業を行い、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。

## 授業アイデア例Ⅱ

### 【指導のねらい】

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書くことができるようにする。

### 【授業アイデア例】

#### 学習の流れ

#### 第1時、第2時

#### ① 学習の見通しをもつ。



教師

「秋」をテーマに各自で短歌を創作します。創作した短歌は、紹介する文章を添えて教室に掲示します。紹介する文章を書く際には、短歌にどのような思いを込めたのかや、それを表現するためにどのような工夫をしたのかが伝わるように書きましょう。

#### ② 作成する掲示物についてのイメージをもつ。

※ 掲示物の割り付けや、教師が事前に作成した掲示物の例を示すことも考えられる。

#### ③ 「秋」をテーマに各自で短歌を創作する。

※ これまでの学習で創作した短歌を活用することも考えられる。

#### ④ 短歌を紹介する文章について、書く際の観点を全体で確認する。

#### 書く際の観点的例

##### <内容について>

- 短歌の背景にある感動の中心
- 短歌に込めた自分の思い

##### <表現について>

- 言葉の使い方の工夫
- 使用した表現の技法とその工夫

など

※ 生徒の実態等に即して、字数を指定することも考えられる。

#### 【掲示物の割り付けの例】

写真やイラストなど	作成した短歌
短歌を紹介する文章	

#### ⑤ ④で確認した観点に沿って、どのようなことを書くのかを各自でノートにメモする。

#### 〔生徒が書いたメモの例〕

- 〈創作した短歌〉  
少しずつ違うからこそ面白い  
もみじの色も雲の形も
- 〈内容について〉  
短歌の背景にある感動の中心  
・ 落ち込んでいたときに見たもみじの葉  
一枚一枚の色や雲の形の違い。  
短歌に込めた自分の思い
- 他の人と比べて自分の悪い点ばかりを見つめるのではなく、よい点を見たい。
- 〈表現について〉  
言葉の使い方の工夫  
・ 「違うからこそ」というように「こそ」を用いて、物事に違いがあることの価値を強調した。  
使用した表現の技法とその工夫  
・ 上の句と下の句の部分に「倒置」を用いて、自分の思いを強調した。  
・ 「もみじの色も雲の形も」と対句を用いて、それぞれの印象を強めるとともに、読んだときのリズムをよくした。

### 第3時, 第4時

- ⑥ ⑤で作成したメモを基に、短歌を紹介する文章を各自で書く。  
⑦ ⑥で書いた文章をグループで交流する。



短歌に込めた思いや、表現する上で工夫した点などについて、読み手に分かりやすい文章の構成で書くことができているかを交流しましょう。

#### 【生徒が書いた文章の例】

私はその日、すっかり自信をなくしていました。授業でうまく発言できなかったり、部活動で思うような成果が出せなかったりと、何をやってもみんなのようにならないうまくやるのができなかったからです。落ち込みながら家に向かっていくと、ふと、色づき始めたもみぢの美しさが目に飛び込んできました。よく見ると、同じもみぢの葉でも一枚ずつ色が違っていき、それぞれの違いが美しいと感じました。さらに、木々の間から見える空に浮かぶ雲の形も、二つとして同じものはないことに改めて気が付いたのです。自分には自分のよさがきつとあると思うことができました。

その感動を短歌で表現するに当たって、「倒置」を用いて上の句で自分の思いや考えを述べました。また、「もみぢの色も雲の形も」と対句を用いて、それぞれの印象を強めるとともに、読んだときのリズムがよくなるようにしました。さらに、「遠うからこそ」というように「こそ」を用いて、物事に違いがあることの価値を強調しました。

これからの生活の中で、この短歌を思い出して元氣になってくれる人がいたらうれしいです。

#### 【交流している場面の例】

一見、短歌の内容とは関係がない書き出しだと感じましたが、読み手の興味を引き付ける書き方でよいと思います。



短歌に込めた思いと目の前の情景との関係が丁寧に書かれていて、書き手の思いに共感することができました。また、表現の技法を使用した意図がよく理解できました。

- ⑧ ⑦の交流を踏まえ、書いた文章を必要に応じて修正し、掲示物を完成させる。  
⑨ 学習を振り返る。

#### 【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は、第3学年「B 書くこと」(1)イを指導することを想定した学習の流れを示している。本問で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、④～⑥に示したように、これまでに学習したことを想起し、分かりやすい説明や具体例を加えて書くように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、④～⑧で、自分の考えの妥当性を示すための論理の展開の工夫ができているかについて、ノートに書いた内容やグループでの交流の様子などを基にして評価することが考えられる。

#### 【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で指導するに当たっては、④～⑥を中心に授業を行うとよい。その際、第1学年「B 書くこと」(1)ウの指導事項を取り上げ、自分の思いを表現するために、なぜそのような表現上の工夫をしたのかが明確になるような書き方について考えるように指導し、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、本問で取り上げた指導事項について指導する場合には、④～⑥を中心に授業を行い、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。

## 国語 4 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

4 竹内さんはスピーチで、自分が読んだ文学作品について、冒頭を音読しながら紹介しようと考えています。竹内さんが紹介しようとしている文学作品の冒頭を取り上げた次の一から三までの各問いに答えなさい。

一 次の——線部①から③までの漢字の正しい読みをひらがなでいねいに書きなさい。

それは、寒い日でありました。指のさきも、鼻の頭も、赤くなるような寒い日でありました。吉雄は、いつものように、朝早くから起きました。

「お母さん、寒い日ですね。」と、こあいさつをして震えていました。

「火鉢に、火がとつてあるから、おあんなさい。」と、お母さんは、もう、朝のご飯の支度をしながらいわれました。

吉雄は、火鉢の前について、すわって手を暖めました。家の外には、風が吹いていました。

(小川未明「ある日の先生と子供」による)

二 次の——線部①と——線部②をそれぞれ現代仮名遣いに直し、全てひらがなでいねいに書きなさい。

宗助は先刻から縁側へ坐蒲団を持ち出して日当りのよささうな所へ気楽に胡坐をかいて見たが、やがて手に持つてゐる雑誌を放り出すと共に、ごろりと横になった。

(夏目漱石「門」による)

三 次の——線部①から④までのうち、動作をしている人(もの)が異なるものをつ選びなさい。

(井上靖「しろばんば」による。)

(井上靖「しろばんば」による。)



竹内さん

## 1. 出題の趣旨

- ・ 文脈に即して漢字を正しく読むこと
- ・ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと
- ・ 文の成分の照応について理解すること

漢字の指導については、社会生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、中学校3年間を通して常用漢字の大体を読めるようにするとともに、学年別漢字配当表に配当された漢字を使い慣れるようにする必要がある。漢字を読む能力としては、漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことができるようにすることが求められる。そのため、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読みの習熟と応用を図ることが大切である。また、字形と音訓、意味と用法、語の成り立ち、熟語の構成などについて必要に応じて指導し、例えば、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目して、読みを類推することができるように指導することも大切である。

また、歴史的仮名遣いなどの文語のきまりについては、生徒の興味・関心を大切にしながら、教材に即して指導したり、必要があれば取り立てて指導したりすることが大切である。古典を取り上げる際には、繰り返し音読して、生徒自らが古典特有のリズムに気付くことを重視し、五音、七音の繰り返しなどの特徴について理解を深める必要がある。また、古典だけでなく、身近な文章の中にある歴史的仮名遣いについて、言葉の意味を考えながら正しく読むことを通して、文や文章についての理解を深めることも重要である。

文の中の文の成分の順序や照応、文の構成を考えることについては、主語、述語、修飾語などの並ぶ順序や、主語と述語の照応、修飾語と被修飾語の照応などについて理解を深めるとともに、語順や語の照応によって表現がどのように変わってくるかを様々な文型について考えさせ、文の成分の順序や照応に関心をもたせることが大切である。

このような〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)に示された「ア 伝統的な言語文化に関する事項」、「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ 漢字に関する事項」については、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、それぞれの事項について指導することが大切である。

本問では、スピーチで、自分が読んだ文学作品について、冒頭を音読しながら紹介するための準備を行っている場面を設定した。文脈に即して漢字を正しく読んだり、文の成分の照応を考えたりすることに加え、歴史的仮名遣いが用いられている作品について、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことを求めている。

## 2. 調査問題の活用にあたって

### 設問二 の趣旨を生かした学習指導の工夫

#### ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア

(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

#### (1) 言語活動を通じた学習指導の工夫について

○ 第1学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア(ア)については、「C 読むこと」の学習を通して、歴史的仮名遣いについて指導したり、歴史的仮名遣いについての知識及び技能を活用して多様な文章を読むように指導したりすることも考えられる。その際、単に歴史的仮名遣いの読み方を意識するだけでなく、文脈に即して語句の意味を考えるように指導することが大切である。また、文章を音読したり朗読したりすることを通して理解を深めるように指導することも重要である。

#### (2) 授業アイデア例について

○ 授業アイデア例Ⅰでは、「竹内さん」がスピーチで、自分が読んだ文学作品について、冒頭を音読しながら紹介するための準備を行っているという本問の場面設定を活用した授業アイデア例を示した。夏目漱石の「門」の冒頭部分の続きを音読することを通して、歴史的仮名遣いに留意しながら文章を読み、文脈の中における語句の効果的な使い方について理解する力を身に付けることをねらいとする。

## 3. 出典等

設問一は、小川未明「ある日の先生と子供」（『定本小川未明童話全集4』1977年2月 講談社）による。設問二及び授業アイデア例Ⅰは、夏目金之助「門」（『定本 漱石全集 第六巻』2017年5月 岩波書店）による。設問三は、井上靖『しろばんば』（2002年4月 偕成社）による。



## 授業アイデア例 I

### 【指導のねらい】

歴史的仮名遣いに留意しながら文章を読み、文脈の中における語句の効果的な使い方について理解することができるようにする。

### 【授業アイデア例】

教材

● 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語4二

学習の流れ

第1時, 第2時

#### ① 学習の見通しをもつ。



教師

歴史的仮名遣いに気を付けながら、夏目漱石の「門」を声に出して読んでみましょう。また、語句の使い方などの表現上の工夫について考えましょう。

#### ② これまでに学習した歴史的仮名遣いを振り返る。

#### ③ 教師の音読を手掛かりに、設問二に示された「門」の冒頭の歴史的仮名遣いを確認する。

#### ④ 「門」の冒頭の続きを各自で音読し、歴史的仮名遣いが用いられている部分に線を引く。

【「門」の冒頭とその続きの一部】 ※ ——は、生徒が引いた線。

(冒頭の続き)  
 秋日和と名のつく程の上天気なので、往來に行く人の下駄の響が、静かな町だけに、朗らかに聞えて来る。肘枕をして軒から上を見上ると、綺麗な空が一面に蒼く澄んでゐる。其空が自分の寝てゐる縁側の窮屈な寸法に較べて見ると、非常に広大である。たまの日曜に斯うして緩くり空を見るだけでも大分違ふなど思ひながら、眉を寄せて、ぎらぎらする目を少時見詰めてみたが、眩しくなつたので、今度はぐるりと寝返りをして障子の方を向いた。

(冒頭)  
 宗助は先刻から縁側へ坐蒲団を持ち出して日当りのよささうな所へ気楽に胡坐をかいて見たが、やがて手に持つてゐる雑誌を放り出すと共に、ごろりと横になつた。

※ 生徒の実態等に即して、更に続きの文章を示すことも考えられる。

#### ⑤ ペアで読みを確認する。

#### 【確認している場面の例】



「斯うして」はそのまま読むと「かうして」だけど、どういう意味なのかな。

「斯うして」は、「こうして」と読むよ。場面の様子を想像して言葉の意味を考えながら読むとよいのではないかな。



#### ⑥ 文章を読み返し、語句の用い方がどのような効果を生んでいるかを考え、気付いたことを各自でノートに書く。



⑦ ⑥でノートに書いたことを全体で交流する。

【交流している場面の例】



「下駄の響」という表現があり，単に「下駄の音」と表現するよりも町の静かな様子が伝わってくると思いました。

「ぎらぎらする日」を「見詰めて」いる「宗助」の表情を「眉を寄せて」と表現していて，眩しさに目を細めている様子が具体的に想像できました。



⑧ 学習を振り返る。

【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は，第3学年「C 読むこと」(1)アを指導することを想定した学習の流れを示している。設問二で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には，②～⑤で，これまでに学習したことを想起し，文語のきまりなどに留意しながら読むように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては，②～⑦で，文脈の中における語句の効果的な使い方を理解しているかについて，ノートに書いた内容や発言の様子などを基にして評価することが考えられる。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で，設問二で取り上げた指導事項について指導する場合には，②～⑤を中心に授業を行い，ノートに書いた内容や音読の様子などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で，設問二で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には，②～⑤を中心に授業を行うとよい。また，第2学年「C 読むこと」(1)アの指導事項を取り上げ，心情を表す語句などについて考えるように指導し，ノートに書いた内容や発言の様子などを基にして評価することが考えられる。





